

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	倉敷芸術科学大学
設置者名	学校法人 加計学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
芸術学部	芸術学科	夜・通信	2	0	14	16	13	
	メディア映像学科	夜・通信	2		22	24	13	
	デザイン芸術学科	夜・通信	2		14	16	13	
生命科学部	環境生命科学科/生命科学科	夜・通信	4	0	10	14	13	
	健康科学科	夜・通信	4		15	19	13	
	動物生命科学科	夜・通信	4		11	15	13	
	生命医科学科	夜・通信	4		11	15	13	
危機管理学部	危機管理学科	夜・通信	2	0	12	14	13	
(備考) 2025年4月 生命科学科を環境生命科学科へ名称変更								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学HPにて公開している。 https://www.kusa.ac.jp/student/websyllabus-info/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	倉敷芸術科学大学
設置者名	学校法人 加計学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園 HP にて公開 https://www.kake.ac.jp/information/officer.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社相談役	2025/6/13 ～4年後の 定時評議員 会の終結時 まで	学園の広報活動を 主として法人運営 全般に対する指導・ 助言
非常勤	株式会社代表取締役	2025/6/13 ～4年後の 定時評議員 会の終結時 まで	学園の地域連携を 主として法人運営 全般に対する指導・ 助言
非常勤	株式会社代表取締役社長	2025/6/13 ～4年後の 定時評議員 会の終結時 まで	学園の産学連携を 主として法人運営 全般に対する指導・ 助言
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	倉敷芸術科学大学
設置者名	学校法人 加計学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【2025 年度授業計画 (シラバス) の作成・公表時期】 2024 年 12 月 24 日：担当教員へシラバスの作成および W e b システムへの入力を依頼する。(2025 年 1 月 30 日入力締め切り) 2025 年 2 月 6 日：学科長等や学務委員による「シラバスチェックに関する意見交換会」を開催する。(シラバスチェック実施要領を説明し、シラバスチェックに関する意見交換を行う。) 2025 年 2 月 6 日～2 月 19 日：学科長等を責任者として、シラバスチェックを実施する。 2025 年 3 月 26 日：「2025 年度シラバス」を HP にて公表する。 【授業計画 (シラバス) の内容】 授業科目ごとに「講義区分 (講義・演習・実験・実験実習)」「講義開講時期 (通年・前期・後期など)」「年次 (履修年次)」「基準単位数」「授業の概要」「ディプロマポリシーとの関連」「フィードバック」「到達目標」「評価方法」「教科書」「参考書」「授業計画表」などを公表している。	
授業計画書の公表方法	HP にて公表 シラバス (https://www.kusa.ac.jp/student/websyllabus-info/) 倉敷芸術科学大学で学ぶこと (https://www.kusa.ac.jp/about-university/outline/pdf/manabu2025.pdf)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目ごとに「シラバス」を作成し、「到達目標」および「評価方法」を明記し、成績評価の方法を定めている。 倉敷芸術科学大学学則第 36 条 (学修の評価) 及び倉敷芸術科学大学履修規程第 5 条で、成績評価の合格基準及び成績を S, A, B, C, D の 5 段階で評価して、単位認定を行っている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【GPA等の客観的な指標の具体的な内容(指標の算出方法など)】

1. 成績の評価は、科目ごとに次の評価基準によって行う。

27 生以降

評点	評価	判定	GP 値
90 点～100 点	秀 (S)	認定する	3.5 点～4.5 点
80 点～89 点	優 (A)	認定する	2.5 点～3.4 点
70 点～79 点	良 (B)	認定する	1.5 点～2.4 点
60 点～69 点	可 (C)	認定する	0.5 点～1.4 点
0 点～59 点	不可 (D)	認定しない	0 点
出席数の不足（既定授業時間の 3 分の 1 以上欠席した場合）又は未受験、受験資格なし	(E)	認定対象外	0 点

26 生以前

評点	評価	判定	GP 値
80 点～100 点	優 (A)	認定する	2.5 点～4.5 点
70 点～79 点	良 (B)	認定する	1.5 点～2.4 点
60 点～69 点	可 (C)	認定する	0.5 点～1.4 点
0 点～59 点	不可 (D)	認定しない	0 点
出席数の不足（既定授業時間の 3 分の 1 以上欠席した場合）又は未受験、受験資格なし	(E)	認定対象外	0 点

3. GPA は、次式によって算出する

((履修登録した授業科目の単位数×当該授業科目の GP) の総和) / 履修登録した授業科目の単位数の合計

※小数点以下第 3 位を四捨五入

※履修登録した授業科目の単位数の合計には、成績評価 D、E の単位数を含む

【客観的な指標の適切な実施状況】

大学ポータルへ掲載している成績表に GPA を表示し、履修指導に活用している。
学生支援ガイドの「4. 学業不振学生の指導について」に示すとおり、GPA を活用して、成績不振の学生に対する面談等を実施している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

HP にて公表
<https://www.kusa.ac.jp/about-university/outline/pdf/evaluation.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	HPにて公表 https://www.kusa.ac.jp/about-university/goal/#dipulo_policy

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【卒業の認定に関する方針の具体的な内容】

本学における卒業認定・学位授与の方針（以下、ディプロマ・ポリシーと呼ぶ）は以下のとおり定めている。

建学の理念のもとでミッションに掲げる「知性と感性を兼ね備えた創造力豊かな人材」を輩出するため、所属学部学科に所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の学修目標に到達した学生に学位を授与します。

(学修目標)

- ・五感を刺激する学びによって、感性豊かな表現力や創造的思考力を身につける
- ・他者と協調・協働しながら、地域の課題や専攻分野のテーマを題材に実践力を磨く
- ・自立した社会人として活躍するための専門的知識や技能を深め、究める

学部学科ごとにもディプロマ・ポリシーを定めている。

学部学科のディプロマ・ポリシーを意識してシラバスを作成するようシラバス作成要領で示している。

【卒業の認定に関する方針の適切な実施状況】

本学則第 46 条および本学履修規程第 9 条に、履修すべき単位数と条件を明示している。本学学則第 46 条のとおり、修得すべき単位数を満たした者に対して、学部教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し、学士の学位を授与すると明示している。

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	倉敷芸術科学大学
設置者名	学校法人 加計学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページにて公表している。 (https://www.kake.ac.jp/information/finance.html)
収支計算書又は損益計算書	学園ホームページにて公表している。 (https://www.kake.ac.jp/information/finance.html)
財産目録	学園ホームページにて公表している。 (https://www.kake.ac.jp/information/finance.html)
事業報告書	学園ホームページにて公表している。 (https://www.kake.ac.jp/information/project.html)
監事による監査報告(書)	学園ホームページにて公表している。 (https://www.kake.ac.jp/information/finance.html)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 倉敷芸術科学大学事業計画 対象年度: 令和7年度)
公表方法: HPにて公表 https://www.kake.ac.jp/information/project.html
中長期計画(名称: 倉敷芸術科学大学ビジョン2031) 対象年度: 2022年度-2026年度
公表方法: HPにて公表 https://www.kusa.ac.jp/about-university/pres-message/

1

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: HPにて公表 https://www.kusa.ac.jp/about-university/outline/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: HPにて公表 https://www.kusa.ac.jp/about-university/outline/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 芸術学部、生命科学部、危機管理学部
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP） https://www.kusa.ac.jp/about-university/goal/#goal
（概要） 芸術学部芸術学科 芸術における幅広い知識と専門領域の技能、及びデジタル技術に対応した表現力を身につけ、知性と感性を活かして広く社会で活躍できる想像力豊かな人材を養成する。 芸術学部（メディア映像学科、デザイン芸術学科） 優れた創造性と深い専門領域の知識や技能を身につけながら人間性を培い、それぞれの感性と教養を通して各種の産業、行政、教育機関等の場で活躍できる人材を養成する。 生命科学部 生命科学は生命を取り巻く諸関連科学の総称であるが、生命に関する幅広い教養的知識を身につけ、生命科学の専門的知識・技能を生かして、社会のかかえている問題解決に貢献できる人材を養成する。 危機管理学部 危機管理の基礎知識と経営・経済活動に影響を及ぼす事象に関する専門知識を学び、さらに幅広い教養的知識を身に付け、将来、学生が活躍する企業、自治体、各種団体等における課題を発見し、主体的に様々な人々と連携し、その課題解決のために自ら行動できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：HP にて公表） https://www.kusa.ac.jp/about-university/goal/#dipulo_policy
（概要） 倉敷芸術科学大学のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針） 建学の理念のもとでミッションに掲げる「知性と感性を兼ね備えた創造力豊かな人材」を輩出するため、所属学部学科に所定の期間在学し、所定の単位を修得し、以下の学修目標に到達した学生に学位を授与します。 （学修目標） ・五感を刺激する学びによって、感性豊かな表現力や創造的思考力を身につける ・他者と協調・協働しながら、地域の課題や専攻分野のテーマを題材に実践力を磨く ・自立した社会人として活躍するための専門的知識や技能を深め、究める ※学部学科については HP へ掲載。 https://www.kusa.ac.jp/about-university/goal/#dipulo_policy

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：HPにて公表）

https://www.kusa.ac.jp/about-university/goal/#dipulo_policy

（概要）

倉敷芸術科学大学のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

芸術学部芸術学科

芸術学部芸術学科では、芸術における幅広い知識を学ぶための理論系科目、専門領域の技能を身につけるための導入科目・発展科目・卒業研究を配置し、領域横断型の実践的学習を行う。導入科目や拡張科目を通してデジタル技術に対応した表現力を修得する。

芸術学部（メディア映像学科、デザイン芸術学科）

芸術学部では、芸術における幅広い知識と専門領域の技能、独創的な表現力を身につけるため、領域を横断して学ぶ制作を中心とした実践的なカリキュラムを編成しています。

生命科学部

生命科学部では、「知性と感性を兼ね備えた創造力豊かな人材」を育成するため、A&S Basic科目において、幅広い知識、思考力や表現力を身につけ、豊かな感性を育むとともに、A&S Advanced科目を系統的に学び、社会に貢献するための専門性を磨きます。

4年間のカリキュラムにおいて、実践的な実験・実習、フィールドワーク、Project Based Learning (PBL)を通して、チームで行動する力や問題解決力、マネジメント力を身につけます。

危機管理学部

1 年次：危機管理学及び経営学・経済学の基礎、ならびに情報セキュリティの知識の基礎を身につけるとともに、ゼミナールや概論科目を通じて大学での学びや進路選択の指針とする。

2 年次：1 年次で学んだ基礎知識をさらに深め、より専門性の高い知識と技能を学ぶことにより、広い視野と深い学びを追求する。

3 年次：より専門性の高い講義や演習・実習を通じて専門分野の学修をさらに深めるとともに、興味ある研究分野の研究室に配属し、研究活動を通じてより深く学ぶ。

4 年次：卒業研究として、専門的論文の購読を通じて専門分野からさらにテーマを絞った研究活動を実践し、締めくくりとして卒業論文にまとめる。

※学科についてはHPへ公表

https://www.kusa.ac.jp/about-university/goal/#dipulo_policy

入学者の受入れに関する方針（公表方法：HPにて公表）

<https://www.kusa.ac.jp/about-university/goal/>

（概要）

芸術学部

芸術学部芸術学科では、芸術における幅広い知識と専門領域の技能、及びデジタル技術に対応した表現力を身につけ、知性と感性を活かして広く社会で活躍できる創造力豊かな人材の養成を目指しています。本学科ではこの目標に到達する意欲を備え、芸術分野に強い興味や関心を持ち、独創的な作品を創り出す意志を持つ入学者を受け入れます。

生命科学部

生命科学部では、幅広い知識を身につけ、生命科学の専門的知識・技能を生かして、社会のかかえている問題解決に貢献できる人材を養成するために、以下のような入学者を受け入れる方針とします。

- ・ 目的意識と学習意欲が高く、目標を達成するために努力を続けられる人
- ・ 失敗を恐れず、チャレンジ精神が旺盛で、好きなことに邁進できる人
- ・ 自分自身の価値観が明確である一方、多様な価値観を受容でき、協調性のある人
- ・ 各学科のカリキュラムを習得するのに必要な基礎学力のある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：（HP にて公表）

<https://www.kusa.ac.jp/about-university/outline/pdf/organizationchart.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）	
-------------	--

学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
芸術学部	－	6 人	10 人	4 人	1 人	0 人	21 人
生命科学部	－	12 人	10 人	8 人	2 人	0 人	32 人
危機管理学部	－	4 人	1 人	0 人	0 人	0 人	5 人
その他	－	4 人	1 人	1 人	3 人	0 人	9 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	129 人	129 人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： 科学技術振興機構のデータベース（researchmap）にて公開 https://researchmap.jp
------------------------------	--

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

本学では教育開発センターにて FD に関する計画・実施・検証を行っており、毎年度、全学 FD、各学部 FD、大学院 FD、授業評価アンケート、授業公開を実施している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
芸術学部	150 人	152 人	101.3%	550 人	597 人	108.5%	2 人	0 人
生命科学部	200 人	149 人	74.5%	790 人	696 人	88.1%	2 人	0 人
危機管理学部	0 人	0 人	0%	60 人	49 人	81.7%	0 人	0 人
合計	350 人	301 人	86.0%	1,400 人	1,342 人	95.9%	4 人	0 人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
芸術学部	87 人 (100%)	4 人 (4.6%)	46 人 (53.9%)	37 人 (42.5%)
生命科学部	193 人 (100%)	3 人 (1.6%)	162 人 (83.9%)	28 人 (14.5%)
危機管理学部	63 人 (100%)	2 人 (3.2%)	45 人 (71.4%)	16 人 (25.4%)
合計	343 人 (100%)	9 人 (2.6%)	253 人 (73.8%)	81 人 (23.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (株)ザグザグ、(株)バンダイナムコピクチャーズ、(株)イタミアート、西日本旅客鉄道、アミノ動物病院、岡山県警本部、岡山市消防局、倉敷中央病院、岡山大学大学院、川崎医療福祉大学大学院、倉敷芸術科学大学大学院等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
芸術学部	114 人 (100%)	81 人 (71.1%)	13 人 (11.4%)	19 人 (16.7%)	1 人 (0.9%)
生命科学部	228 人 (100%)	176 人 (77.2%)	14 人 (6.1%)	32 人 (14.0%)	5 人 (2.2%)
危機管理学部	94 人 (100%)	63 人 (67.0%)	11 人 (11.7%)	19 人 (20.2%)	2 人 (2.1%)
合計	436 人 (100%)	320 人 (73.4%)	38 人 (8.7%)	70 人 (16.1%)	8 人 (1.8%)
(備考) 転学科 1 名 (健康科学科→危機管理学科)、1 名 (動物生命科学科→危機管理学科) 2 名 (生命医科学科→生命科学科※1 名退学)、1 名 (動物生命科学科→生命医科学科) 1 名 (危機管理学科→健康科学科)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
We b シラバスシステムを利用し、授業科目ごとに、「授業の概要」「到達目標」「授業外学習」「評価方法」「注意事項」「授業計画」「教科書」「参考書」の内容を公表している。
体系的な学習や振り返りを行うために、教育目標・方針や「カリキュラム・ツリー」「カリキュラムとディプロマ・ポリシーの関与を示す表」等をまとめた「倉敷芸術科学大学で学ぶこと」を作成し、公表している。「カリキュラムとディプロマ・ポリシーの関与を示す表」で授業の方法（講義、演習、実験・実習別）が確認できる。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 【学修の成果に係る評価】 本学学則第 36 条および本学履修規程第 5 条に、成績評価の基準、GPA 基準（成績の概況を判断する指標）とその算出方法を明示している。 【卒業の認定】 本学学則第 46 条および本学履修規程第 9 条に、修得すべき単位数と条件を明示している。本学学則第 46 条のとおり、修得すべき単位数を満たした者に対して、学部教授会の審議を経て、学長が卒業を認定し、学士の学位を授与すると明示している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
芸術学部	芸術学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	メディア映像学科	124 単位	(有)・無	44 単位
	デザイン芸術学科	124 単位	(有)・無	44 単位
生命科学部	生命科学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	健康科学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	動物生命科学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	生命医科学科	124 単位	(有)・無	48 単位
危機管理学部	危機管理学科	124 単位	(有)・無	48 単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：公表していない		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： (授業評価アンケート結果) https://www.kusa.ac.jp/about-university/outline/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：(HP にて公表) https://www.kusa.ac.jp/about-university/outline/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
芸術学部	デザイン 芸術学科	865,000 円	220,000 円	735,000 円	実験・実習費 235,000 円 施設設備費 500,000 円
	メディア 映像学科				
	芸術学科				
生命科学 部	生命科学 科	845,000 円	220,000 円	695,000 円	実験・実習費 225,000 円 施設設備費 470,000 円
	環境生命 科学科				
	健康科学 科			585,000 円	実験・実習費 160,000 円 施設設備費 425,000 円
	動物生命 科学科			(1 年次) 470,000 円 (2 年次以降) 720,000 円	実験・実習費 (2 年次より徴収) 250,000 円 施設設備費 470,000 円
	生命医科 学科			720,000 円	実験・実習費 250,000 円 施設設備費 470,000 円
危機管理 学部	危機管理 学科	845,000 円		245,000 円	実験・実習費 100,000 円 施設設備費 145,000 円
学部共通				60,000 円 120,000 円	休学中の在籍料 休学期間 3～6 ヶ月 休学期間 7～12 ヶ月

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、各学科の教員チューターによる学習や学生生活等に関する相談体制を構築している。学生支援センターでは、学生生活に関するアンケートを実施し実態把握に努めている。また、学期初めに成績不振者を対象とした学科教員による面談を実施し、助言や指導を行っている。さらに、教員はオフィスアワー（面談時間）を設けており、学生はこの時間帯等に授業の質問等の相談ができる。 障がい学生支援について 本学に在籍する障がいのある学生が、障がいのない学生と等しい条件のもとで学生生活が送れるよう、授業保障、情報保障を中心に「倉敷芸術科学大学障がい学生支援規程」に基づき修学支援を行っている。 公表方法：HP にて公表 (https://www.kusa.ac.jp/student/disability-support/)

b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 個別相談・個別模擬面接、就職ガイダンスの開催、学内会社説明会開催、インターンシップ紹介、エントリーシート・履歴書添削、大学オリジナル履歴書（無料配布）等
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の心身の健康管理と健康増進をはかるために、次のような取り組みを行っている。 健康診断、健康相談、応急処置、近隣の病院紹介、カウンセラー等による相談 公表方法：HP にて公表 (https://www.kusa.ac.jp/facility/health-control/)

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：科学技術振興機構のデータベース（researchmap）にて公開 https://researchmap.jp

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F133310109625
学校名（〇〇大学 等）	倉敷芸術科学大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 加計学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		175人（－）人	174人（－）人	184人（－）人
内 訳	第Ⅰ区分	97人	92人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅱ区分	45人	37人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅲ区分	21人	25人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	－	11人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				184人（－）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	4人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	4人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	5人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	11人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	人	人
計	11人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。